
大腸がん検診

大腸がん検診（便潜血検査）の実施成績

川崎 成郎

東京都予防医学協会消化器診断部長

はじめに

東京都予防医学協会(本会)では、1986(昭和61)年より便潜血検査による大腸がん検診を実施している。そして、1次検査で陽性となった精密検査対象者には大腸がん追跡調査用紙を配布し、受診した提携先医療機関またはそれ以外の医療機関より精密検査の結果を返信していただくという、追跡調査システムを実施している。なお本システムの対象者は職域検診、地域検診、人間ドックの受診者である。

便潜血検査は、抗ヒトヘモグロビン・マウスモノクローナル抗体を利用した金コロイド凝集反応で便中のヘモグロビンを測定する免疫比色法(富士フィルム和光純薬社)により、大腸内の出血の有無を調べる方法である。

1日のみ採便する1日法と2日間採便する2日法があり、検査委託団体や健康保険組合との契約により異なる。また、検体は基本的には検診時に回収しているが、10月～3月に実施する一部の事業所では郵送による回収も行っている。

本稿では、2024(令和6)年度の大腸がん検診の実施成績と結果について報告する。

受診者数と年齢分布

大腸がん検診の総受診者数は65,139人(男性36,157人、女性28,982人)で、男女比は1.25:1と男性が多かった。

検診別の男女比率を見ると、職域検診(60.4%)と人間ドック(63.6%)では男性の割合が高かったのに対し、地域検診では女性の割合が69.6%と高かった。

表1 検診区分別・年齢別分布

検診区分	性別	年 齢 区 分							総計	男女比率 (%)
		～29歳	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳～		
職域	男性	407	2,431	8,476	9,916	5,198	750	137	27,315	(60.4)
	女性	456	1,692	5,801	6,552	2,860	509	71	17,941	(39.6)
	合計 (%)	863 (1.9)	4,123 (9.1)	14,277 (31.5)	16,468 (36.4)	8,058 (17.8)	1,259 (2.8)	208 (0.5)	45,256 (69.5)	
地域	男性		15	524	791	962	887	302	3,481	(30.4)
	女性		6	2,224	2,290	1,870	1,239	346	7,975	(69.6)
	合計 (%)	(0.0)	21 (0.2)	2,748 (24.0)	3,081 (26.9)	2,832 (24.7)	2,126 (18.6)	648 (5.7)	11,456 (17.6)	
人間ドック	男性	16	817	1,560	1,727	1,027	204	10	5,361	(63.6)
	女性	14	497	903	1,040	508	100	4	3,066	(36.4)
	合計 (%)	30 (0.4)	1,314 (15.6)	2,463 (29.2)	2,767 (32.8)	1,535 (18.2)	304 (3.6)	14 (0.2)	8,427 (12.9)	
全体	男性	423	3,263	10,560	12,434	7,187	1,841	449	36,157	(55.5)
	女性	470	2,195	8,928	9,882	5,238	1,848	421	28,982	(44.5)
	合計 (%)	893 (1.4)	5,458 (8.4)	19,488 (29.9)	22,316 (34.3)	12,425 (19.1)	3,689 (5.7)	870 (1.3)	65,139	

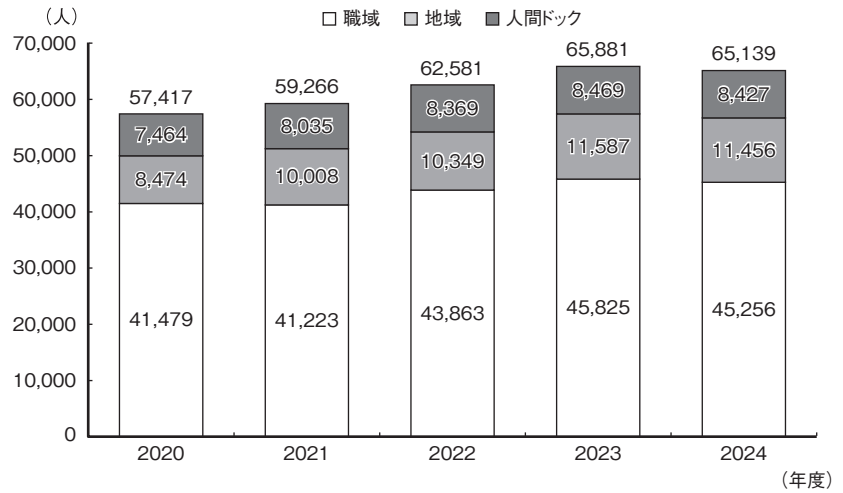
検診の内訳は、職域検診が45,256人(69.5%)、地域検診が11,456人(17.6%)、人間ドックが8,427人(12.9%)であった。2024年度の受診者数は2023年度と比較して、職域検診で569人、地域検診で131人、人間ドックで42人減少し、全体で742人の減少となった。これまで受診者数は年々増加傾向にあったが、2024年度は過去5年間で初めて、すべての検診区分で受診者数が減少した。

受診者の年齢分布をみると、男性では職域検診・人間ドックでは50～59歳が、地域検診では60～69歳が最も多かった。一方、女性では職域検診・地域検診・人間ドックのすべてにおいて50～59歳が最も多かった(表1)。

受診者数の推移

検診区分別の受診者数の推移を図に示した。

図 検診区分別受診者数の推移 (2020～2024年度)



2023年度と比較すると、2024年度の受診者数は全体で742人(1.13%)減少した。検診別の減少率は、職域検診が1.24%、地域検診が1.13%、人間ドックが0.50%であった。

検診結果

職域検診での便潜血検査の要精検者数は3,152人、要精検率は6.96%で、精検受診者数は529人、精検受診率は16.8%であった。大腸がん発見率は0.024%

表2 検診結果

(2024年度)

検診区分	性別	総受診者数	1次検診結果		精検受診者数	精検未把握者数	精密検査診断結果						大腸がん陽性反応適中度	
			異常なし	要精検			大腸ポリープ	大腸憩室症	炎症性腸疾患	痔核	異常なし	その他		大腸がん
職域	男性	27,315	25,297	2,018	301		149	31	5	12	96	3	5	
	女性	17,941	16,807	1,134	228		84	24	3	17	93	1	6	
	合計	45,256	42,104	3,152	529	2,623	233	55	8	29	189	4	11	
	(%)		(93.04)	(6.96)	(16.8)	(83.2)							(0.024)	(0.35)
地域	男性	3,481	3,173	308	115		75	10	6	2	16	1	5	
	女性	7,975	7,382	593	203		92	16	4	16	66	4	5	
	合計	11,456	10,555	901	318	583	167	26	10	18	82	5	10	
	(%)		(92.14)	(7.86)	(35.3)	(64.7)							(0.087)	(1.11)
人間ドック	男性	5,361	4,954	407	79		4	51	2	3	18	1	0	
	女性	3,066	2,853	213	54		21	1	5	1	25	0	1	
	合計	8,427	7,807	620	133	487	25	52	7	4	43	1	1	
	(%)		(92.64)	(7.36)	(21.5)	(78.5)							(0.012)	(0.16)
総計	男性	36,157	33,424	2,733	495		228	92	13	17	130	5	10	
	女性	28,982	27,042	1,940	485		197	41	12	34	184	5	12	
	合計	65,139	60,466	4,673	980	3,693	425	133	25	51	314	10	22	
	(%)		(92.83)	(7.17)	(21.0)	(79.0)							(0.034)	(0.47)

(男性5人, 女性6人)で, 陽性反応適中度は0.35%であった。

地域検診での便潜血検査の要精検者数は901人, 要精検率は7.86%で, 精検受診者数は318人, 精検受診率は35.3%であった。大腸がん発見率は0.087% (男性5人, 女性5人)で, 陽性反応適中度は1.11%であった。

人間ドックでの便潜血検査の要精検者数は620人, 要精検率は7.36%で, 精検受診数は133人, 精検受診率は21.5%であった。大腸がん発見率は0.012% (男性0人, 女性1人)で, 陽性反応適中度は0.16%であった。

今回, 職域検診・地域検診・人間ドックのすべての検診で受診者数が減少した一方, 全体の精密検査受診率は2023年度の20.2%から2024年度には21.0%へと0.8ポイント上昇した。検診区分別にみると, 職域検診では1.2ポイント, 人間ドックでは3.0ポイントそれぞれ上昇したが, 地域検診では3.8ポイント低下した。

精検受診者980人の精検結果の内訳は, 大腸がん以外では大腸ポリープが最も多く, 次いで大腸憩室症, 痔核, 炎症性腸疾患の順であった。その他としては悪性リンパ腫, 直腸粘膜脱症候群疑いなどがあつた(表2)。

発見された大腸がんの特徴

2024年度に発見された大腸がんは22人であり, 内訳は男性10人, 女性12人で男女比は1:1.2であった。

早期がんは13人(59.1%), 進行がんは9人(40.9%)であった(表3)。

大腸がん検診のまとめ

本会における2024年度の大腸がん検診受診者数は65,139人で, 2023年度の65,881人から1.13%減少した。

要精検率は7.17% (2023年度7.17%)と許容値(7%)を若干上回り, 要精検者数は減少した。精検

表3 発見がんの特徴

(2024年度)		
	早期がん	進行がん
発見数	13人	9人
〔組織型別〕		
腺がん	10	6
不明	3	3
〔肉眼分類別〕		
0-I p	3	
0-I sp	5	
0-I s	1	
0-II a	2	
0-II a+c		
2型		4
5型(分類不能)		1
その他の組み合わせ		4
不明	2	
〔深達度別〕		
M	8	1
SM	1	
MP		1
SS		2
不明	4	5
〔病期別〕		
0期	8	
I期	1	2
II期		3
III b期		1
IV期		
不明	4	3

受診率は21.0%と2023年度の20.2%から増加した。精検受診者数は980人と, 2023年度の956人から24人の増加がみられた。精検受診者数は若干増加したが, 大腸がん検診に関する意識のさらなる向上が必要である。大腸がん検診に関するさらなる啓発により, 受診者をより増加させることに努めていきたい。

本会では大腸がん検診精検受診率の向上を目的に, 2015(平成27)年4月から全大腸内視鏡検査を導入している。2024年度の要精検者数からみると, 依然として十分な成果を上げているとは言い難い。今後は要精検者が確実に精検を受けるような受診勧奨方法を確立したい。要精検者が強い認識を持てるような案内をより徹底することが必要である。